

～セカンドライフを迎える方々への裾野拡大～ セカンドライフ×まちづくり活動 応援セミナー (中間報告)

総合企画局 総合政策室 SDGs・市民協働推進担当

2023年1月

※まちづくり活動：まちを良くするため、住みやすいまちにするための自主的な活動，社会に興味を持って社会に関わる行動など，全ての地域，社会とかわる活動のこと。子ども食堂，清掃活動，見守り活動（防犯や福祉），学習支援，など幅広くあります。

現状：平均寿命の伸びとまちづくり活動への関与

日本人の平均寿命の推移

2010年 男性：79.55歳、女性：86.3歳

2019年 男性：81.41歳（+1.86歳）、女性：87.45歳（+1.15歳）

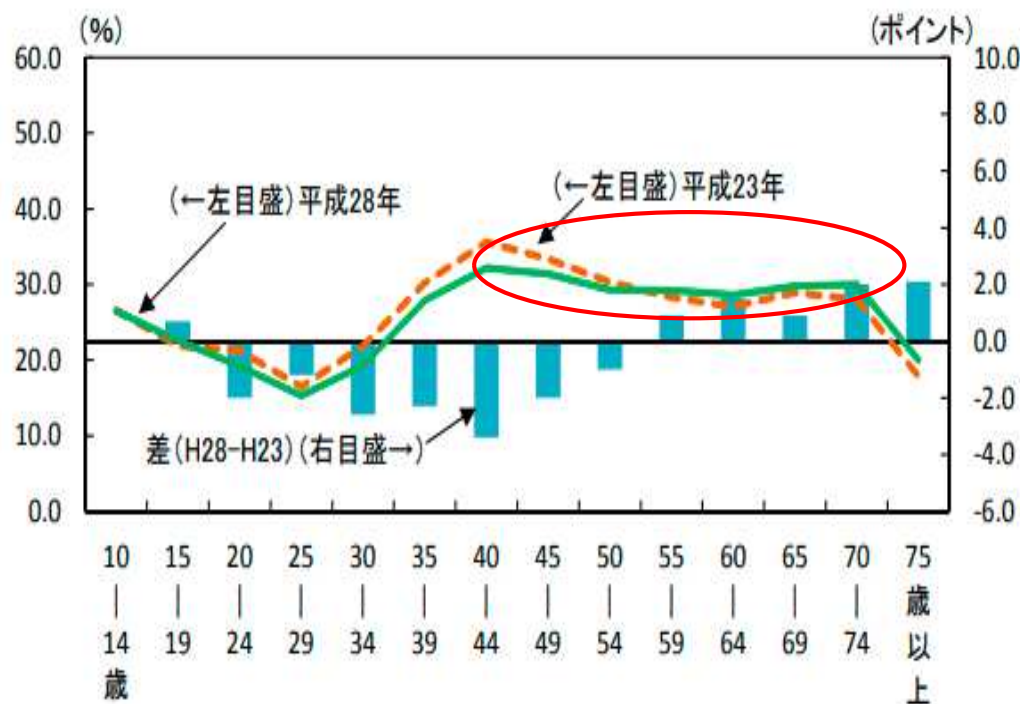
健康寿命の推移

2010年 男性：70.42歳、女性：73.62歳

2019年 男性：72.68歳（+2.26歳）、女性：75.38歳（+1.76歳）

（厚生労働省）

図2-1 「ボランティア活動」の年齢階級別行動者率（平成23年、28年）



- ボランティア活動の行動者率は35歳から74歳まで約30%で推移している。
- H23年からH28年にかけて55歳以上の年代で割合が増加している。反対に若い世代で減少している。

（社会生活基本調査）

現状：まちづくり活動への関与（京都市市政総合アンケート）

令和元年度に実施した京都市市政総合アンケート結果

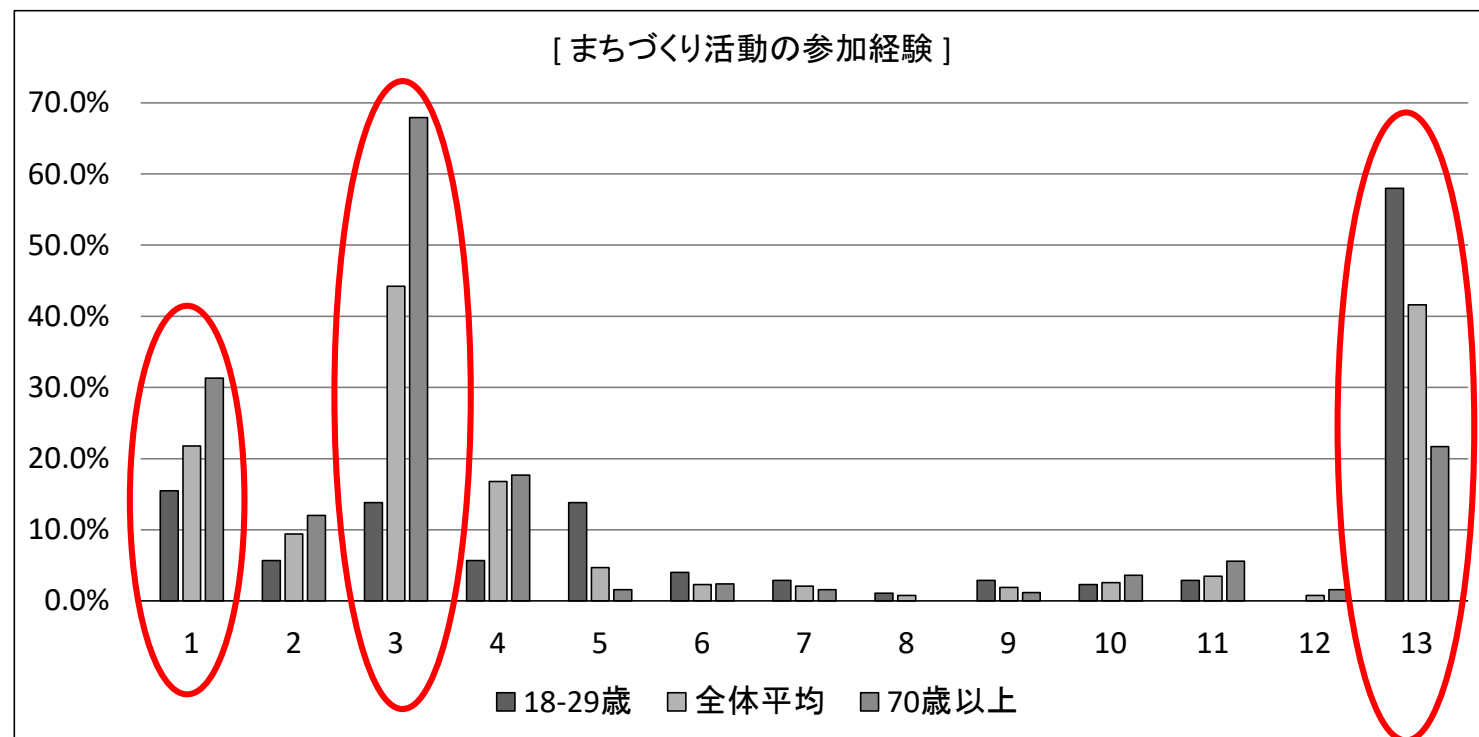
参加する活動の多い順に、自治会・町内活動、ボランティア活動と続く。それぞれ年代が高いほど活動への参加の割合が高くなっている（回答数1,000，回答総数：1,525）。参加したことがないは約4割超となっている。

問 参加したことがある「まちづくり活動」（複数回答）

- 1 近所の清掃や，個人として参加するボランティアなど（個人としての活動） 21.8%
- 2 寄付，クラウドファンディングなど，金銭的な支援（個人としての活動） 9.4%
- 3 自治会・町内会などの活動 44.2%

<回答省略>

13 参加したことがない
41.6%
[数値は全体平均のみ]



現状：まちづくり活動への関与（京都市市政総合アンケート）

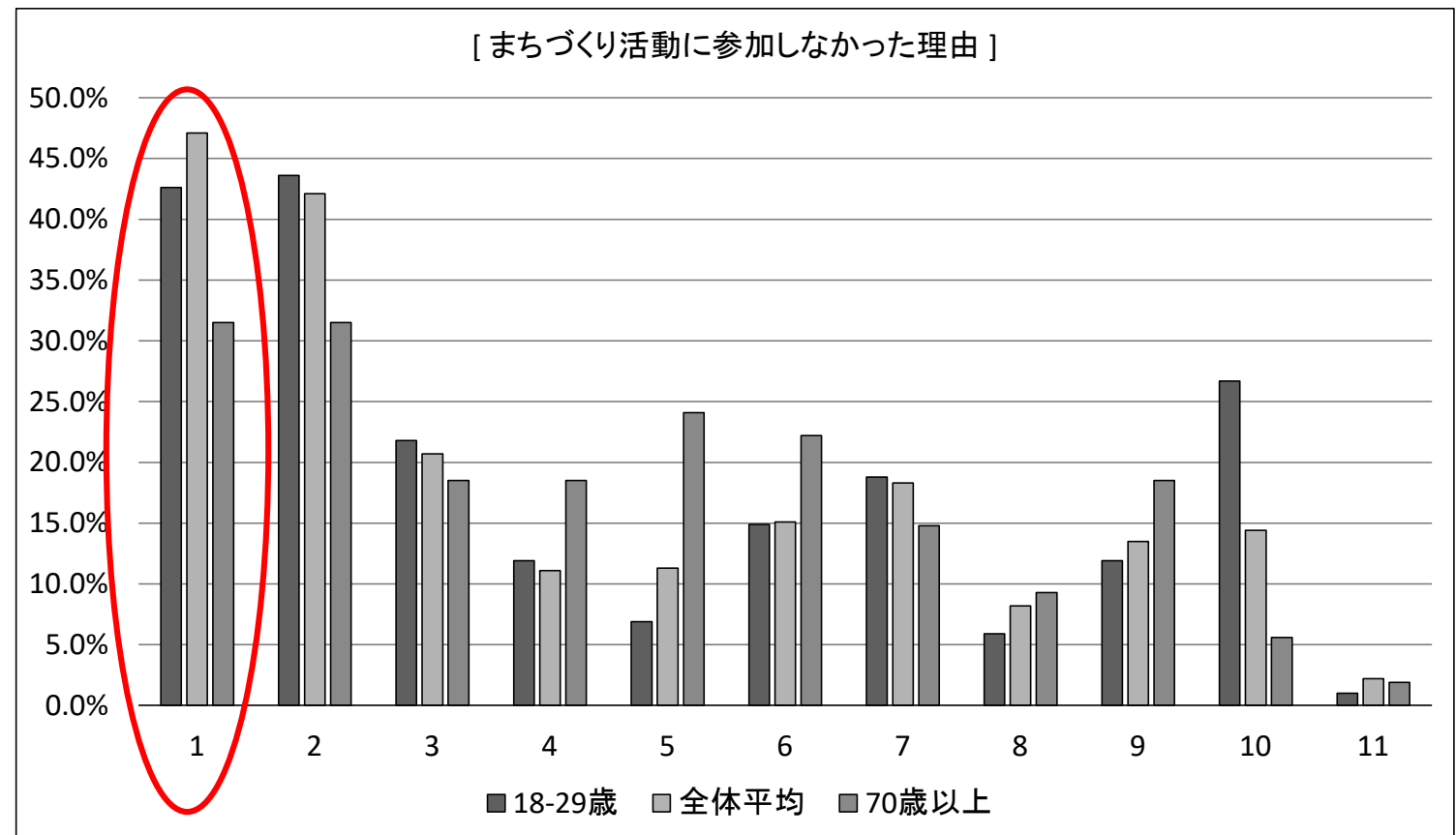
前の問で「参加したことがない」（41.6%）と回答された方に質問（416件/1,000件）。参加方法が分からないことが理由として最も高かった。

問10【新規】 まちづくり活動をしなかった理由（3つまで回答）（回答総数：848）

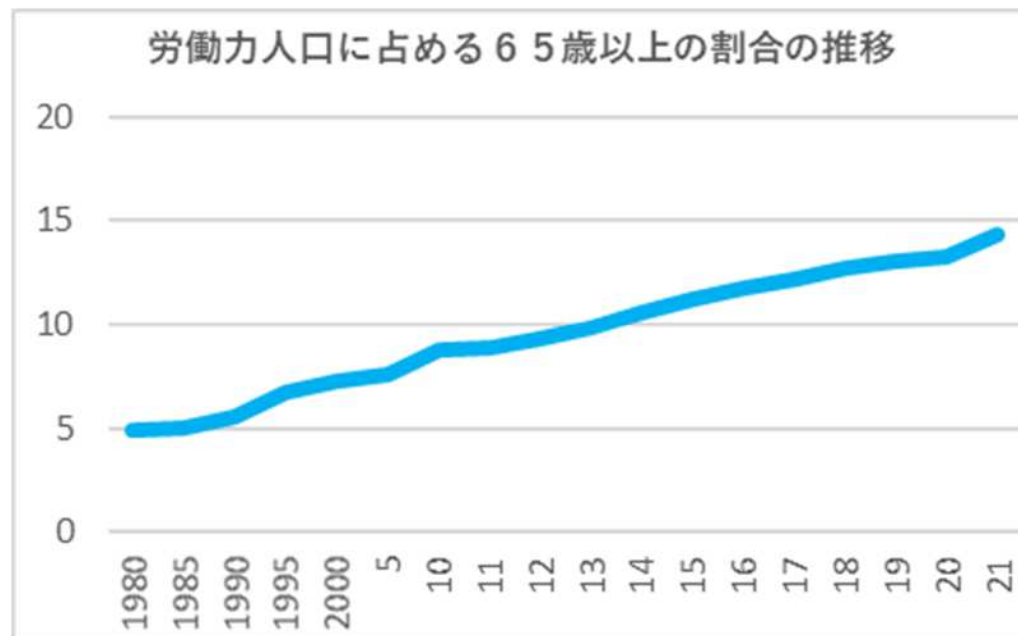
- 1 参加のきっかけ，方法がわからない，わかりにくいから 47.1%
- 2 参加する時間がない，合わないから 42.1%
- 3 一緒に参加する仲間がいない，少ないから 20.7%
- 4 活動の場の敷居が高いから 11.1%
- 5 肉体的に負担がかかるから 11.3%

<回答省略>

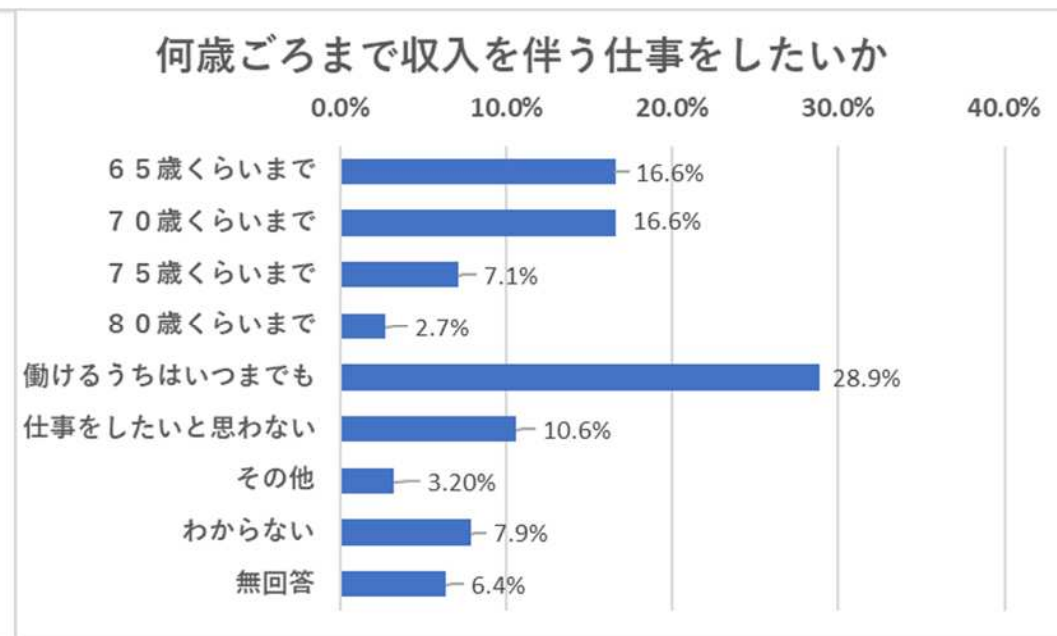
[数値は全体平均のみ]



現状：働きたいシニア層の増加（内閣府調べ）



高齢社会白書(2021年版)



内閣府調査(2021年)

- ・ 労働力人口に占める65歳以上の割合は年を追うごとに増加しており、2020年の7.3%から2021年には13.4%まで増加
- ・ 70歳くらいまで働きたい方が多い。
- ・ 定年後も働きたい方が多く、ボランティアよりも収入が得られる活動を希望

現状：まちづくり活動の裾野拡大の取組（関係部署・機関）

部署又は機関	裾野拡大の取組	取組の周知方法
総合企画局 市民協働推進 担当	㊤新たに活動を立ち上げたい方への相談対応 ㊦活動における仲間づくりの相談対応	ＨＰによる情報発信 活動団体等へのメール配信
区役所・支所 ※ 右の取組は全区・支所の共通の取組ではありません。	㊤新たに活動を立ち上げたい方への相談対応 ㊦活動における仲間づくりの相談対応 ㊨新たな活動に対する助成金の交付 ㊩活動を立ち上げたい、活動に参加したい方々の交流の場の設置	ＨＰによる情報発信 市関係施設でのチラシ配架 活動団体等へのメール配信
京都市市民活動 総合センター	㊤新たに活動を立ち上げたい方への相談対応 ㊦活動における仲間づくりの相談対応 ㊧活動に参加したい方への活動団体の紹介 ㊨仲間がほしい団体の情報発信・紹介	ＨＰによる情報発信 市関係施設でのチラシ配架 活動団体等へのメール配信

現状：まちづくり活動の裾野拡大の取組（関係部署・機関）

部署又は機関	裾野拡大の取組	取組の周知方法
京都市福祉ボランティアセンター	①新たに活動を立ち上げたい方への相談対応 ②活動における仲間づくりの相談対応 ③団体向け会員拡大講座等の開催 ④ボランティア等入門講座の開催 ⑤活動に参加したい方への活動団体の紹介 ⑥仲間がほしい団体の情報発信・紹介	H P による情報発信 市関係施設でのチラシ配架
京都府地域政策室	①新たに活動を立ち上げたい方への相談対応 ②活動における仲間づくりの相談対応 ③団体向け会員拡大講座等の開催 ④新たな活動に対する助成金の交付 ⑤活動に参加したい方への活動団体の紹介 ⑥活動を立ち上げたい、活動に参加したい方々の交流の場の設置	H P や SNS による情報発信 府関係施設でのチラシ配架 活動団体等へのメール配信

セミナーの狙い：まちづくり活動の参加者増加(裾野の拡大)

～セカンドライフを迎える方にまちづくり活動の魅力を発信～

- ・ 50代、60代の方を中心に経験豊富で多彩な知恵を持っておられる年代の方が、セカンドライフにおける活躍の場を見つけるため支援を行う。
- ・ 活躍の場として、地域や社会に貢献するまちづくり活動を選択してもらえるよう、気軽にトライアルができ、様々な人とかかわりながら楽しんでもらえるような仕組みづくりを図る。
- ・ 既存の取組とは異なる、周知チャネルや集客の工夫を行うなど、新たな取組を発見する実験的な取組を行う。

研究の進め方：裾野拡大のための新たな手法を探る

＜見学・体験を中心としたプログラム＞

(従来) 既存の裾野拡大の取組としては、まちづくり活動を説明する講座や活動団体探しの相談対応などが多い。

⇒ 実際に活動している方から話を聞き、自身の目で見て活動に加わる、対話、見学、体験ができるプログラムを実施

＜新たな周知チャネルの摸索＞

(従来) ターゲット（対象者）へのアプローチとして、施設でのチラシの配架、HP等を使った発信、市の広報媒体による周知等が多い。

⇒ 企業等の組織から従業員への周知など、情報伝達の方法を試行（プログラム①）

＜集客層を広げるテーマ設定の工夫＞

(従来) まちづくり活動への参画を呼び掛け

⇒ セカンドライフの充実のさせ方など、まちづくり活動そのものをテーマとしない呼び掛け方で集客（プログラム②）

プログラム①：新たな周知チャネル摸索

参加者の募集

所属する組織からの案内を中心に周知（情報を探しに来てもらうのではなく、確実に届ける。）

<周知方法>

(1) メール送付等による周知

商工会議所：会員企業へのメールマガジン送付

中小企業家同友会：会員企業へのメール送付

大規模事業所や市役所等：社内通知文や掲示板等での通知

京都府地域カメーリングリスト：登録者へのメール

関係機関：会員企業へのメール

(2) 職場訪問等による直接周知

市役所、本市関係施設、京都SKYセンター：チラシの手渡し又は説明付きで配布

<申込者>

(1) 申込者数

9月3日 11名（自治体職員2名、企業3名、無職3名、その他3名）

10月1日 9名（自治体職員2名、企業2名、無職3名、その他2名）

(2) 年齢構成 55歳未満：3名 55歳～60歳：6名

61歳～65歳：5名 65歳超：6名

プログラム①：新たな周知チャネル摸索（振り返り）

周知方法に係る振り返り

- メールによる周知では多くの方に届けることはできるが、添付のURLのクリックやチラシの開封までされる方は多くはなかったと推測される。
- 一部の企業で応募者が複数名出たところもあることから、周知方法の工夫次第で参加者数を増やせる可能性があると考えられる。
- 直接周知を行った際に聞かれた声から、定年後も継続雇用期間中は仕事中心の生活となっており、仕事以外の活動に対するニーズは高くはなかった。加えて、65歳以降のことも考える状態にはないとの声も多かった。
- 65歳を超えても働きたいとの声があった。中でも社会保険が適用される仕事が望ましいとの意見があった。
- セミナーへの参加については、65歳超の方のニーズが多いとの声が結構聞かれた。
- 社会や地域のために活動する重要性は認めるが、自身がそれに携わるのは難しいとの意見があった。（時間の余裕がないなど）

プログラム①：当日の進め方及び参加者からの評価

＜当日の進め方＞

ゲストスピーカーからの話

- ・ まちづくり活動は気楽に取り組むもの、セカンドライフでまちづくり活動をされている方の様子、声などを伝える。

グループワーク

5つのテーブルに分かれてまちづくり活動団体と交流

- ・ 1テーブルにまちづくり団体の方と参加者2～3名がつき、団体の活動内容を説明したうえで、参加者からの質疑応答
- ・ 興味を持つ団体3者から話を聞く(テーブル移動)
- ・ 興味を持った活動団体への見学・体験参加の予約

＜プログラムに対する参加者の評価＞

- (1) アンケートの回答数 9名
- (2) ゲストトークの満足度 3.4/5段階

具体的な意見：「一歩踏み出すことが大事と感じた。」「ボランティアは気軽に始めてもよいと分かった。」など

- (3) まちづくり団体との交流 4.4/5段階

具体的な意見：「活動の具体的な内容が聞けた。」「自分がやりたいことが見えてきた。」「実際やっている方からの生の声が聞けた。」など

プログラム会場の様子①



プログラム①：当日プログラムの振り返り

当日プログラムの振り返り

- ・ 当日はスムーズに進行し、トラブルなどはなかった。
- ・ ゲストトークに対して低い満足度（1点、2点）の回答が見られた。
- ・ 団体と参加者との交流においては対話も盛り上がり、参加者の満足度も高かった。
- ・ 体験申込では、20名中15名の参加申し込みがあった。
（体験に至る作業が団体まかせとなるので、実際の体験数については後日確認）
- ・ ボランティア、まちづくり活動経験のない方が多かった。（プログラムの目的は新規参加のため、想定する方に来ていただけた。）
- ・ もともとまちづくり活動に興味を持っている方が多いことが見学・体験の申し込みにつながったと推測
- ・ まちづくり団体同士の交流希望があった。
（当日は名刺交換程度）

プログラム会場の様子②



プログラム①：見学・体験の状況及び振り返り

<見学・体験（後日）>

申し込んだ団体の活動に参画して，見学又は体験する。

申込み状況

9月3日：11名中10名が申し込み

10月1日：9名中5名が申し込み

⇒ 体験参加のあと5名の方が団体に加入

見学の様子（車いす点検作業）



体験参加に係る申込結果（振り返り）

- ・ 申込み結果から活動への参加申込み数は多かった。
- ・ 一人で複数団体への参加申し込みも見られた。
- ・ 特殊な技能を必要とする団体では参加に結びつきにくい傾向が見られた。
- ・ 参加のハードルが低いものや農作業などの面白そうなものなどは、申込数が多かった。また、環境などのキーワードで体験を申し込まれるケースも見られた。
- ・ まちづくり活動団体側も参加者からの申込みがあったので、満足度は高かったと推測される。（今後、アンケート等で調査を実施）

今後の取組：プログラム②の実施

プログラム②を1月31日及び2月4日に開催します。

1月31日（火）14時から17時 職員を対象に御池創生館で開催

2月 4日（土）13時から16時 深草支所で市民の方むけに開催

いずれの日もゲストスピーカーとして楠木新氏をお迎えし、5団体に参画をしてもらったうえで開催

⇒ 開催した結果については、
改めてフォーラムにご報告します。

人生100年時代の豊かなセカンドライフを築くヒント
～セカンドライフの備え・大丈夫ですか？～

人生100年時代。楽しくイキいきと過ごすためには早い段階からの準備が重要ですが、なかなか思いが上がりません。が実現ではないでしょうか。今回、定年後にどのように過ごされているかの実態や経験とともに、充実されている方の過ごし方から見えるヒントを紹介します。併せて、そのヒントにつながる活動、社会や地域とつながり、仲間づくりに寄与するまちづくり活動も紹介します。新たな可能性を開く機会として、皆様、お気軽に参加してみてください！

日時 令和5年
2月4日(土)
13:00～16:00

会場 深草支所 4階会議室
京都市伏見区深草向畑町 93-1
※京都市中心部から徒歩約10分

定員 30名 【事前申込制・先着順】
※京都市内に在住または通勤の方
(セカンドライフでまちづくり活動に貢献のある方とはなっても)

参加費 無料

講演 定年後を“黄金の15年”
にする50代からの備え
～後悔しない第二の人生を見つけるためのヒント～

講師 楠木 新氏
まちづくり活動団体の紹介と交流

自分のペースで楽しむ
いろんな笑顔に出会える
地域を住みよくしたい
新しい仲間を見つける

25万部超の
ベストセラー
『定年後』
の著者

申込締切 令和5年1月23日(月) 申込方法は裏面をご覧ください。